ASC2018 報告書

報告書係 京都支部3年 洲脇聖也

名古屋支部2年 古後水暉

神戸支部1年 上村菜々子



1 団長挨拶

九州支部1年 奥代凛花

日本人参加者 25 名という例年を大きく上回る人数での参加となった今年の ASC。

参加者全員にただの旅行ではなく、ASC に参加することに意味を持って過ごしてほしいという気持ちで取り組みました。会期が始まる前や会期中序盤は韓国人と日本人の間に緊張と不安が見られました。お互いが言語の壁を超えられるのか、自分たちを受け入れてくれるのかといった不安が大きかったように感じます。しかし中盤からは、大切なのは言語ではないこと、お互いにもっと話したい関わりたいと思っていることが日韓の間で徐々に伝わり始め、アクティビティを通してより親密な関係が築かれていったと思います。途中、宿泊施設の問題や体調不良者が出るといったトラブルがありましたが、その際も韓国側が日本人のために一生懸命対応してくれる姿や日本人を第一に考えてくれている様子を見て、日本人も何かできることはないかと積極的に関わる姿が見受けられました。

トラブルをチャンスに変えて、日本人と韓国人がお互いのことを真剣に考えるいい機会になったと思います。

最後になりますが、参加者の皆さんには団長として不十分だった私のことを支えてくれて本当に感謝しています。参加者全員に、特別な意味を持った ASC としての最高の思い出を持って帰ってもらいたいという思いが少しでも伝わっていたら嬉しいです。

そして ASC で実感した、国を超えて交流を深めることの楽しさ・幸せを ISA の数々の プログラムを通してもっと盛んに共有してほしいと思います。

ありがとうございました。

2 参加者名簿

役職	名前	支部	学年	大学
団長	奥代凛花	九州	1	北九州市立大学
副団長	パウエル井上潤	岡山	3	岡山大学
財務	児島桜	九州	1	北九州市立大学
	山本佳奈	神戸	3	関西学院大学
国際涉外	佐藤成希	大阪	1	関西大学
	青木志織	名古屋	1	南山大学
	谷山愛優	九州	1	北九州市立大学
文化紹介	川上綾友美	名古屋	1	南山大学
	宮部真優	神戸	1	神戸女学院大学
	田中徹平	大阪	2	関西大学

	大和雪乃	岡山	1	ノートルダム清心女子大学
勉強会	井町清美	岡山	1	ノートルダム清心女子大学
	益田桃花	岡山	1	ノートルダム清心女子大学
	河野直樹	名古屋	2	南山大学
	古後水暉	名古屋	2	南山大学
報告書	洲脇聖哉	京都	3	同志社大学
	上村菜々子	神戸	1	神戸松蔭女子学院大学
	武田明日香	岡山	1	ノートルダム清心女子大学
合宿	小西彩香	岡山	1	ノートルダム清心女子大学
	中井智章	岡山	1	岡山理科大学
	浪江由梨香	神戸	1	甲南大学
広報	安倍優香	神戸	2	神戸女学院大学
	青戸多恵	神戸	2	神戸松蔭女子学院大学
	木村弥与	岡山	1	ノートルダム清心女子大学
保険	谷口汐紀	名古屋	1	南山大学
チケット	高田和暉	京都	2	同志社大学

3 日別活動報告

8/13(1 日目)

集合時間より 1 時間半くらい早く集合場所である光州のバスターミナル着き、現地の方が為替レートが良いので、光州バスターミナル付近の国民銀行で円からウォンに替えた。韓国語ができなくても、英語で難なく両替もできた。英語便利。レートの悪い関空でお小遣い程度しか両替しなかったのは神の一手と言わざるを得ない。

集合時間で一定数の ASC 参加者メンバーと合流したが、韓国側が集合時間決める前に飛行機の便をとった参加者も多かったため、ある程度の数のメンバーは途中合流となった。

オープニングセレモニーの会場に行くためにバスに乗ったが、バスは治安が悪く、滅 茶苦茶揺れる。バスに揺らされ、バランスを崩してしまうと、バスの運転手に韓国語で激怒 され、韓国での洗礼を受けることになった。

オープニングセレモニー会場では、昼食の弁当を食べながら会話したり、自己紹介や ゲームなどでアイスブレイクが行われ、少しは皆んなと仲良くなれた気がする。会場は大学 であるが、規模的にはまさしく大学であるが、中は中学校に近い雰囲気だった。

それからグループ毎に分かれてシティツアーをした。僕の班はまだ遅刻組のメンバーと合流しながら、ソルビンというかき氷を食べた。ソルビンはかなり美味しかったが、大

きいソルビンを皆んなで個人個人のスプーンを使ってつつき合うスタイルに少し戸惑った。 その後すぐにバイキングに行ったが、ソルビンがお腹に溜まっていたので、そんなに食べられなかった。やはり辛く見た目が赤い料理が多いなという印象を受けた。その後は高台に登り夜景を眺めた。綺麗だった。それからタクシーで帰り、お金がまだ余っているみたいなので、アイス買って、ホテル付近の甘すぎるアイスティーを飲んだ。基本的に韓国の~ティーは甘過ぎる。その後はお風呂入って、参加者と談笑してから寝た。







8月14日(2日目)

た。

前日の長時間の移動にもかかわらずこの日の起床は思いの外早い 8:00 頃で、私が起きたときにはすでに多くの者が準備を終えていた。なぜこの時間に起きたかというと、今回のASCではディスカッションを行うからである。眠い目をこすり、まだ起きていない頭をなんとか起こそうとしながらホテルに隣接するカフェへと向かった。そこで事前に共有されていたディスカッション用のグループに分かれた。テーブルにつくと、昨日も触れられていたやけに甘いと噂のピーチティーが配布された。飲んでみると想像以上に甘かった。カップの底を見るとその秘密がわかった。見ると底には溶けきらなかった砂糖が沈んでいたのである。どうりで甘いわけだ。しかし、この甘さは眠気覚ましにはちょうど良かった。話をディスカッションに戻そう。テーマは「幸せ」という曖昧なものであったが、要するになにがあんたを幸せにするのか、ということである。みな思い思いの意見を言っていた。言い

ディスカッションが終わると近くに昼食を食べに行った。本日の料理はスンドゥブであった。しかしこれがまた辛く、ここでも韓国の洗礼を受けることとなった。話を聞いていると、韓国人にとっても辛かったようで、大半の参加者が完食を断念していた。私は完食したが、辛すぎて味云々の問題ではなかった。たぶんおいしかったと思う。ご飯があったのがせめてもの救いであった。

忘れたが、このディスカッションの公用語は英語である。寝起きだったので結構しんどかっ

ご飯が終わると、この ASC 初めてとなるバス移動で益山刑務所セットへ向かった。どうやらここは韓国の映画の撮影に使われた撮影セットらしく、一部の女子が騒いでいた。ついてみると、かなり辺境にありびっくりしたが、セット自体は本物の刑務所のような雰囲気があった。中に入るとたくさんの監獄と、不気味な看守のマネキンがあった。ここではグループ単位で行動した。看守の服と囚人服が試着できたのでしてみた。しかし、どちらも長袖で、室内は冷房がなく換気も最悪であったのですぐ脱いだ。他のグループは長時間着ていたところもあったが、見ていて暑かった。ほかにもたくさんの見るところがあった。中には実際に映画に使われていた独房もあり、それを知っている人はまたはしゃいでいた。

夜は韓国側の文化紹介、というようなものをした。要するに歌ったり踊ったりした。韓国側は歌を二曲、日本側はダンスをいくつか披露した。ダンスといっても希望者が踊ったのだ

が、とても上手でびっくりした。韓国側の歌も想像以上に上手かった。なんでももともと歌手を志していたとかでそれはもう上手かった。なんだかんだですごく盛り上がった。そしてここでプレゼント交換も行われた。私は名古屋名物の味噌と、オーストラリア土産のペンを出品し、受け取ったのがドラえもんのマスキングテープであった。他には、絶対喜ばれる実用的な者から明らかにネタのものまで様々なものがあった。一番いいなと思ったのが手持ち扇風機、いらないと思ったのが金正恩氏の顔写真である。あと岩倉観光大使い一わくんのタオルもひどかった。当たったら出品者に土下座させてやろうかと思っていたが当たらなかったのでよかった。というか当たった韓国人参加者が首をかしげていたのがなんとも気の毒であった。

その後は徒歩でホテルまで移動し、各自就寝した。





8月15日(3日目)

朝は元々ディスカッションが予定されていたが、参加者やスタッフの疲労から中止になり、朝食を食べてからしばしの休憩となった。朝食は鳥丼で多少の辛みはあったもののおいしくいただくことできた。ただ、量が少し多かった。 その後約二時間の自由時間を部屋で過ごす。寝る者、ゲームする者、喋る者と各々やりたいことをして過ごした。

準備ができると 11 時頃宿を出発。とても急かされた。そしてタクシーで昼ご飯の場所へ。とにもかくにも昼飯は冷麺だった。急かされた割についたら男しかいなかったので拍子抜けしたことをよく覚えている。冷麺はとてもおいしかった。暑い夏にぴったりな冷たいスープと、久しぶりな辛くない料理であったのでおいしくいただくことができた。しかし、朝飯食べて何もせずこの冷麺を食べたので、女子達には少し苦しかった模様。食べ残しが多かった印象を受けた。

昼を食べると例のバスで移動。約一時間と少しの旅程で海へ到着。バスから見える海の景色にみなはしゃいでいた。かくいう私もはしゃいでいた。だって海楽しみだったから。到着するとそこは多くの海水浴客で賑わっていた。海ではまずグループに分かれてアクティビティをした。内容は走って変な靴を履いて戻ってくるというもの。たぶんこれだけではわからないと思う。だが端からみているだけでも十分楽しめた。その後約2~3時間の自由時間を海で過ごす。写真を撮る者、動画を撮る者、水で遊ぶ者と各々やりたいことをして過ごした。海に入ったのは男どものみであった。数人の男性韓国人参加者が女子を海に突き飛ばそうとしていたが、女子達は本気でいやがっていたのでそこそこで断念していた。しかしそれでもすごく楽しかった。まさにこのひとことにつきる。また、ラジオの公開収録をやっており、知らないうちにオガチが曲のリクエストをして収録席に座っていた。韓国語でインタビュ

ーされていたので内容はさっぱりだったが雰囲気で楽しかった。その後、オガチリクエストの「瞳を閉じて」が流れていたが、音質が悪かったのが残念だった。

海を出ると夕食の場所に向かった。周りに何もなさ過ぎて驚愕したが、ちゃんとしたレストランだった。メニューは、もはや定番となった真っ赤な料理達が並んでいた。しかし我々もなれてきたのだろうか、普通においしくいただいていた。

そんな折、私の韓国で最も鮮烈に残っている出来事の一つが起こる。唐辛子を丸かじりしてみたことである。ことの顛末はこうだ。ある韓国人参加者が唐辛子をかじって、おまえもどうだ? といってきたのでとりあえず私もかじってみた。その瞬間、後悔した。今まで味わったことのない辛みが口内を襲ったのである。しばらくものが食べられなかった。他にも何人か試していた者がいたが、全員同じことになっていた。さすがにあほなことをしたと反省した。食後は自由時間があったので土産を見たり外で走り回ったりと楽しんだ。私は外で韓国版の「だるまさんが転んだ」をしたのだが、これがなかなか楽しかった。

そのまま宿に帰ったあと、各々お菓子を持ち寄りスイーツパーティーが開催された。かくいう私はオーストラリアのお菓子であるティムタムを持参したのだが、思いの外好評で嬉しかった。日韓様々なお菓子が並べられており、ついつい食べ過ぎてしまった。まあおいしかったから大丈夫だろう。

その後は解散、部屋に帰り就寝した。













8月16日(4日目)

この日の朝も、前日に引き続き自由時間であった。というのも、パッキング作業があった からなのであるが。なので、昼飯から後のことを記す。昼はまた外食であった。しかし、あ のメニューの名前がわからない。もやしのスープ、と言うことははっきりしているのだが正 式名称は何というのだろうか。とりあえず、もやしスープに卵と米を投入した物を食べた。

特にスープは辛くはなかったが、付け合わせのキムチが一番辛かった。

その後、バスで本日の宿へ移動、荷物を置いて次の体験場所へ徒歩で向かった。内容は韓服を着るというもので、我々も各々気に入った柄の韓服を選んで着ることができた。帽子もかぶってみたが、重すぎて首がやられそうになった。また、それを着たまま街を徘徊した。街には私たち以外にも同じ服を着た観光客がたくさんおり、浮くことはなかったので安心した。私のグループは韓国の有名なかき氷であるソルビンを食した。私のイメージしていたかき氷とは似ても似つかず、それは従来の私のかき氷という概念をひっくり返す代物であった。値段にも合点がいく。練乳かけ放題というのが又良かった。溶けてきた後、練乳かけて混ぜてしまうのがおいしい。

韓服を着たあとはチョコパイを作った。説明が韓国語だったのだが、全くわからないので韓国人参加者の一人が通訳をしてくれた。ここら辺で韓国における韓国語の重要性と、英語では限界があることを察した。少し気づくのが遅かった。チョコパイ作りはクリームを挟み、チョコに浸すという簡単な行程であったので皆楽しくできたことであろう。

それが終わると、夕食場所に徒歩で移動。夕食はジャージャー麺であった。辛くなく、 量もそれほどではなかったので、ぺろりと平らげることができた。

その後、徒歩で宿に移動。夜に ASC ナイトでのラーメン交換が予定されていたが、夕食もまた麺で、お腹もそれほど空いていないということもあり、中止となった。代わりに希望者でカラオケに行った。日韓双方わかる曲といえば K-POP で、それ中心に歌われていた。中にはダンスを覚えて踊っていた者もいた。皆が楽しそうだったことに加え、私も十分雰囲気を楽しめたので満足している。ただ、私はこのときもう少し K-POP について見聞を深めようと決意した。その後、宿に帰り就寝。遂に残るはあと二日である。







神戸支部一年 上村菜々子

朝9時起床。少し喉が痛かった。どうやらエアコンに喉をやられたようで、他のメンバーも 喉を痛めたり、体調を崩している人が何人か見られた。

この日は班に分かれてディスカッションがあり、一階にカフェがある建物でスムージーやコーヒーを飲みながらディスカッションを行った。テーマは、「私の心配事」「死ぬまでにやりたいこと」であり、ブレインストーミング形式で自分の意見を出していった。特に結論は出ず、それぞれが言いたいことを言うような不思議なディスカッションだと感じた。

昼食は全州でビビンバを食べた。ご飯の上に乗っているものが日本で食べるビビンバと違っていたので驚いた。本来なら午後から花火大会が開催されるはずだったが、ASC のグループラインに「花火大会は苦情のため中止になりました」という情報が入った。詳しい事情はよく分からなかったが、私たちは夜の ASC night まで休憩時間を過ごすことになった。花火大会が中止となり暇になったとき、日本語が話せる韓国の参加者の方が、全州を案内してくださった。最初に日本でも大人気で行列ができるタピオカのチェーン店「ゴンチャ」にタピオカミルクティーを買いに行こうとしたが、あいにくタピオカが切れていたため、私の

タピオカミルクティーは飲めなかったが、ロールアイスや焼きカマンベールチーズなど、初めて食べるものを食べることができた。

「ゴンチャのタピオカミルクティーを飲む」という夢は儚く散った。

買い物を終えて、宿舎へ戻る途中にお化け屋敷を発見し、韓国のお化け屋敷など滅多に行く 機会はないので入ってみることになった。

説明などはお化けのメイクをしたイケメンスタッフの方がしてくださり、中でも同じ方に 驚かされた。

正直ずっと下を向いて歩いていたので内容はよく覚えていないが、かなり怖かった。 この日はスタッフの方がお化け屋敷での仕事が最後の日であったので、お化け屋敷に入ったメンバーとスタッフの方と一緒に写真を撮らせていただいた。

時間になり、宿舎の近くからタクシーに乗り、ASC night の会場へ向かった。会場には、デリバリーのチキンが届いており、チキンとそれぞれが持ち寄ったラーメンを食べた。

韓国のチキンは日本で食べるフライドチキンとは違い、チーズや少し辛味があるヤンニョムチキンなど様々な味があり、衣がとてもサクサクしていた。

会場にはステージがついており、音楽を流して踊ったり、写真を撮ったりした後、日本人参加者が韓国人参加者にプレゼントを渡した。プレゼントの中にはキャラクターの絵がプリントされた日本のパックがあり、宿舎に帰った後、参加者全員でパックをつけて写真を撮った。私は ONE PIECE のチョッパーのパックをつけたが、口の部分が小さすぎて喋りづらかった。面白いパックをつけて、皆で笑いあった楽しい最後の夜を過ごした。









8月18日

9時起床。昨日のディスカッションをした建物に行き、前日のディスカッションの内容を一人ずつ英語で発表した。韓国のメンバーと、日本の英語が話せるメンバーの英語力に驚き、自分も頑張らねばと思えた。朝食はほかのメンバーの発表を見ながら、キムチなどを混ぜた大きいおにぎりを潰して食べる、「ライスバーガー」を食べた。

発表の後に、一人ずつ大きな色紙に一言寄せ書きを書いた。韓国のメンバーに英語か韓国語でメッセージを書くのは難しく時間がかかったが、文章量が多く書けない分はイラストで補った。

バスで光州に約 2 時間かけて戻り、予定にはなかったが大きくておしゃれなカフェで寄せ書きの続きを書いた。カフェに行く途中に一人で大声で怒鳴る女性が歩いており、私たちと同じカフェに入ってまた怒鳴っていたので、少し怖かった。

解散する時間は 2 時間くらい押していたが、ここで ASC のメンバーとお別れだと思うと、 寂しくなってきた。

最後にカフェの前で集合写真を撮り、お別れするのが悲しくて涙が出てきた。オンニたちと 抱き合っていると、余計に涙が出てきた。

みんなでバスターミナルへ行き、ほかのバスに乗るメンバーと別れ、同じバスに乗るメンバーと急いで e mart で急いでお土産を買い、バスへ乗った。

私は次の日に帰るのでホテルへたどり着けるかなどの不安もあったが、無事たどり着ける ことができ私たちの ASC は終了した。

この 6 日間で、普通の旅行では実感できない団結力や人と協力してなにかを成し遂げることを味わえた。現地に行って初めて知ったことやトラブルもあったが、韓国と日本の仲が深まったと思った。



4 参加者の声

初日、結団式をした後グループに分かれて歩いて街を観光しました。お互いぎこちない韓国 語や日本語を使いながら仲良くなるために沢山会話をしました。夜ご飯にチキンを食べな がら韓国ではやっているゲームをやったり夜景を見たりしました。

次の日からは朝からディスカッションをしてお互いの事、国の事の理解を深めました。"幸せとは何か"という題では普段幸せとは何か考えないので、自分がどれだけ幸せな生活をできているか改めて振り返れました。そしていろんなところへバスで行き観光をしました。海に行ったり刑務所セット見学をしたりチマチョゴリを着たり街を散策しました。

バスの中でもずっと話しをしていました。特に盛り上がったのはアルバイト、そして.k-popの話です。

沢山の韓国の料理を食べましたが一番美味しかったのはジャージャー麺です。韓国の食べ方をマネして食べてみて韓国に馴染めたような気がしました。辛いものが多かったのですが、辛い物が苦手でも挑戦して見てください!私も得意ではなかったのですが慣れてきて美味しくて、逆に日本に帰ってきてから物足りなく感じました。

最後の日 ASC night でみんなと写真を撮っていると本当に最後の日なんだなという実感が 湧いて泣いてしまいました。もっと一緒に居たかったし、 ASC が 続けばいいのにと思い ました。韓国の参加者、日本の参加者に沢山お世話になりました。短い会期でしたがそれく らい濃くて素晴らしい時間を過ごせました。

私がこの会期中に学んだ事は、言葉がちゃんとした文でなくても、おかしくても"伝えたい!!"という気持ちが有れば伝わるという事。

何事も挑戦することの大切さ。

そして友情に年も国も関係ないという事です。

次参加したいと思っているけど躊躇っている人がいれば、気持ち次第で素敵な体験、思い出 そして大切な友達ができるので是非参加してほしいと思います。

九州支部1年 谷山愛優

今回、ASC に参加してみて私が思ったことは、国籍が違っても関わろうとする意志を自分が持っていたら、コミュニケーションをとることができて、関係を深められるということです。私自身、韓国語がペラペラというわけでもなければ、英語が得意というわけでもなく、最初は 1 週間という期間を過ごす上で、言葉が通じない中で仲良くなれるのかという不安がありました。しかし、スケジュールを過ごしていくなかで、韓国側も私達と関わろうとしてくれているのが目に見えて、積極的に話しかけてくれたお陰で、私もコミュニケーションをとれるようになりました。そしてその人たちとは今でも連絡を取り合うくらい仲良くなれました。また、ディスカッションをしていくなかで、韓国人と日本人の学生の共通した悩みや、逆に日本人はこういう悩みは持たないということもあり、新しい発見もありました。毎日初めて体験することがあり、とても充実した日々を過ごせたと思います。

名古屋支部1年 川上綾友美

ASC では韓国人と同じ部屋に泊まったり一緒に市内を散策したりと普段の海外旅行ではできないような体験がたくさんできました。自分たちが調べてきた韓国のマナーなども実際韓国に行ってみると違ったりしてとても驚きました。ASC に参加した韓国人はみんな日本語が上手で話しかけてくれたので今度は自分から話しかけられるように英語だけではなく韓国語も勉強したいという気持ちになりました。ASC に参加できて本当に良かったです。